

ヒオウギ *Iris domestica* (L.) Goldblatt et Mabb.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 13。草地性の植物で、愛知県では減少傾向が著しい。総点は 13 であるが、人為圧としてはマイナス評価にしかならない管理放棄によって草地が減少していることを考慮し、絶滅危惧 I B類と評価する。

【形態】

多年生草本。地下茎は短くはう。地上茎は直立して上部で分枝し、高さ 50~120cm になる。葉は互生し、2 列に重なり合い、中脈に沿って表面を内にして折れて剣状になり、広い線形、長さ 30~50cm、幅 2~4cm、先端は鋭尖頭、緑色で多少粉白をおびる。花期は 8~9 月、分枝した枝先に数個の膜質の苞をつける。花は苞の中に 3~4 個つき、直径 4~5cm、長さ 1~4cm の柄があり、花被片は 6 枚、橙色で内面に暗赤色の斑点があり、狭長楕円形である。果実は蒴果で倒卵状楕円形、長さ約 3cm。種子は光沢のある黒色、球形で直径約 5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 46836, 1993-8-21)、3 東栄 (小林 38919, 1992-8-23)、7 設楽東部 (小林 54703, 1994-10-22)、8 鳳来北東部 (小林 40116, 1992-10-24)、11 作手 (小林 62484, 1997-9-27)、15 豊橋北部 (芹沢・芳山 172, 1984-7-27)。西：23 藤岡 (日比野修 3696, 1996-8-8)、28 額田 (小林 49218, 1993-10-30)。12 新城にもあるという (小林 2000)。標本は採取しなかったが、9 鳳来南部でも見たことがある。ただしこれらの区画のうちいくつかでは、すでに絶滅している可能性が高い。2 豊根 (下黒川新井, 鳥居喜一 324, 1958-9-22, HNSM)、14 蒲郡 (西浦町, 鳥居喜一 12221, 1949-7-17, HNSM)、25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 275, 1958-7-24) で採集された標本もある。

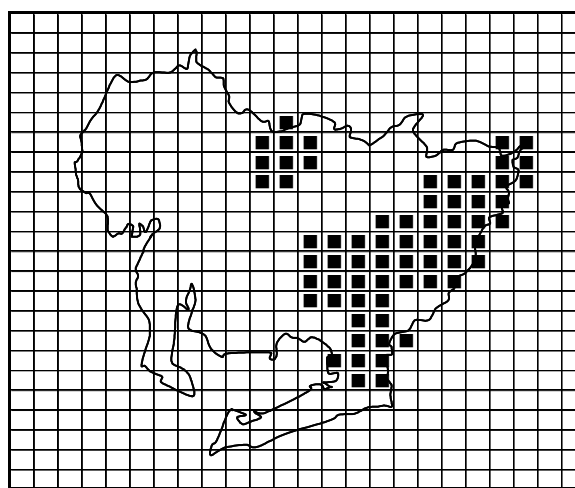
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆、インドなど。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の草原に生育する。谷戸田周辺の里草地にはあまり見られず、尾根すじのカヤ場に多い。岩棚などに生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河には点在するが、個体数は少ない。西三河では極めて稀で、尾張ではまだ確認されていない。採草地としての利用の停止に伴う草地の減少により、近年著しく減少している。全国的にも、似たような状況にあると思われる。

【保全上の留意点】

尾根筋の草地は防火帯としても重要であり、定期的に草刈りを行って草地状態を維持する必要がある。

【特記事項】

観賞用として、しばしば栽培される。和名は、葉の並び方が檜扇に似ているためである。種子は黒くてうば玉、あるいはぬば玉と呼ばれ、古来黒、夜、あるいはそれに関連した語の枕詞とされた。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.163. 愛知県, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.74, 平草本 I p.62, 平新版 1 p.234, SOS 旧版 p.96.